

# 児童室だより No. 66(2009. 1発行)

読んでみませんか 児童室がえらんだものがたり・ちしきの本

本の情報	内容
<p><b>「てのひらかいじゅう」</b> しぜんといっしょ1</p> <p>松橋利光しゃしんとぶん そうえん社 2008.9 【小低～】</p>	<p>うちのには、ジャングルみたい。なにもいないようにみえるけど、すごいいきものがすんでいる。するどいめでこちらをみながらしたをペロリ。おおきなくちをあけたかいじゅう！でも、そのしょうたいは「カナヘビ」。トカゲやヤモリモちかくでみると、かいじゅうみたい。てのひらにのせられるかいじゅうだ。きみもてのひらかいじゅうをさがしてみよう。つかまえ方や飼い方の説明もあるよ。</p> <p>(J487-マツ-9491844)</p>
<p><b>「はんぶんペペちゃん」</b></p> <p>村中李衣作 ささめやゆき絵 佼成出版社 2008.9 【小中～】</p>	<p>とうさんがてんきんで引っこしをくりかえすため、はることかあさんは、和菓子屋のじいちゃんの家でくらすことに。はなれてくらしているために、はるこはとうさんとうまく話せない。クリスマスの日、とうさんが、金髪でほっぺたの真っ赤な女の子ペペちゃんのすがたをしたキャンディーボックスをくれた。「はるこに似てるだろ？」と言って。とうさんが帰る日、声をかけられずにはるこは、ペペちゃんの顔の部分をおとうさんにわたした。気持ち伝わっただろうか。</p> <p>(J913-ムラ-9481300)</p>
<p><b>「しろくまのこえ」</b> 幻冬舎エデュケーションの ネイチャーブック</p> <p>伊藤年一[著] 幻冬舎エデュケーション 2008.9 【小低～】</p>	<p>北極でうまれたしろくまのふたごの赤ちゃん。冬ごもりの巣から、はじめて外にでて大はしゃぎ。冬の間なにもたべていなかったおかあさんは、こぐまをつれてさっそくえさのアザラシさがし。1年目、こぐまたちはおかあさんに守られてすごし、2年目はいきる知恵を教わって、3年目からは自分の力で生きていく。しかし今、温暖化により氷原がせばまって、えさのアザラシがへっており、しろくまはうえ死にの危機にたっているのだ。</p> <p>(J489-イト-9487814)</p>
<p><b>「あの犬が好き」</b></p> <p>シャロン・クリーチ作 金原瑞人訳 偕成社 2008.10 【小中～】</p>	<p>「いやだ だって 女の子のもんだよ 詩なんてさ。男は書かない」そう思っていたジャック。自分の名前をのせることもいやがっていた。でも授業がすすむうち、言葉の格好良さや発想のおもしろさに気づき、先生のちよっとしたアイデアのおかげもあって、詩への関心がたかまってくる。数々の詩人の詩に出会い、同じように自分の詩を書くことで心の中に抱えていた悲しみから、少しずつ解放されていく少年の物語。</p> <p>(J931-クリ-9511802)</p>
<p><b>「オランウータンのジブシー」</b> 多摩動物公園の スーパーオランウータン</p> <p>黒鳥英俊著 ポプラ社 2008.9 【小中～】</p>	<p>多摩動物公園のジブシーは、世界で2番目に長生きのオランウータン。1955年生まれで、多摩動物園が開園した年に、東南アジアのカリマンタン島にある熱帯の森からやってきた。ジブシーはとてもかしこくて好奇心おうせい。ハーモニカをふいたり、ぞうきんを上手にしぼってぞうじをしたり、スコップで草を植えかえたり。まるで人間のおばあさんのようなしぐさでみんなを楽しませてくれる。ジブシーの頭の良さにびっくりするよ。</p> <p>(J489-クロ-9482540)</p>
<p><b>「ハリスとぼくの夏」</b></p> <p>ゲイリー・ポールセン作 はらるい訳 文研出版 2008.9 【小高～】</p>	<p>両親がアルコール中毒で面倒がみられないため、親せきの家を転々としていたぼく。11歳の夏、おじさんの農場にあずけられ、9歳のいとこハリスに出会った。農場の仕事を手伝いながら、自然児ハリスが、つきつきと思いつくともんでもない遊びにつきあわれる。戦争ごっこでブタに突撃して跳ね飛ばされたり、ターザンのまねをして失敗し、フンまみれになったり。農場でみんなとしげきてきな毎日を過ごすうち、ぼくはすっかりハリスの家族の一員になった気がしていたが…。</p> <p>(J933-ホル-9482578)</p>

### 「世界を動かした塩の物語」

マーク・カーランスキー文  
S.D.シンドラー絵  
BL出版 2008.9  
【小中～】

今日わたしたちは、なにも考えずに食べ物に塩をふりかけている。塩はどこにでもあると思っているからだ。しかし、塩をめぐる戦争や革命をひきおこした時代もあったのだ。人々をひきつけ、経済をも左右してきた塩。人間だけでなく地球上に生きるすべての哺乳類は塩を食べなければ生きてはいけない。このすごい力をもった「塩」をテーマに、世界の歴史をふりかえってみよう。

(J669-カラ-9496377)

### 「パディントンの大切な家族」

マイケル・ボンド作 ペギー・フォートナム画  
福音館書店 2008.10  
【小高～】

ロンドンでブラウンさんの家族と暮らしているパディントンは、ママレードが好物で、いつも帽子とコートを身につけているくま。この本には、パディントンが学校に行くお話、掃除機のセールスをするお話、水上スキーを習って宙を舞うお話などが収められている。パディントンがいくところ必ずゆかいな騒動がまきおこる。そして今回ついにペルーから、パディントンの育ての親ルーシーおばさんがやってきた。

(J933-ホン-9501216)